

フードリサイクルを活用した事例 1

1 背景

フードリサイクルの活動を通して、学校全体で食に関する指導を行う体制がすでにできていた。また、フードリサイクルを中心に学校、家庭、地域との連携もとれつつあった。

2 実態調査

「野菜の好き嫌い調査」を行ったところ、「野菜は自分の健康を支える大切なもの」と9割の児童は理解しているも、「嫌いな野菜を食べようとしているか」の問いには6割の児童が「はい」と答えるにとどまり、実践には至っていない。

3 具体的な取組

上記の実態からフードリサイクルの取組を通じ、育てる活動、食す体験から加工体験を強化し、保護者へのPRも実施することで家庭への啓発も同時に行い、家庭へ啓発して野菜を食べさせようとした。

特別活動の学級活動の時間での指導のほか、フードリサイクルの取り組みを通じ、1, 2年生の生活科、3, 4, 6年生の総合的な学習の時間、5, 6年の家庭科などに部分的ではあるが栄養教諭が直接関わり指導した。また、野菜作りや加工体験の内容を毎日の給食時間の指導にフィードバックして生きた教材としながら、日常的に食に関する指導を行った。

4 指導の効果

「指導を行ったことにより食べ残しを減らそうとする意識が高まった。」「野菜料理の残量が減る。」「家庭でも野菜を食べる児童が増えた。」という効果が見られた。

野菜料理の残量の変化は、和え物料理の残量が4月10%→1月3%、サラダ料理の残量4月13%→1月5%であった。

5 評価

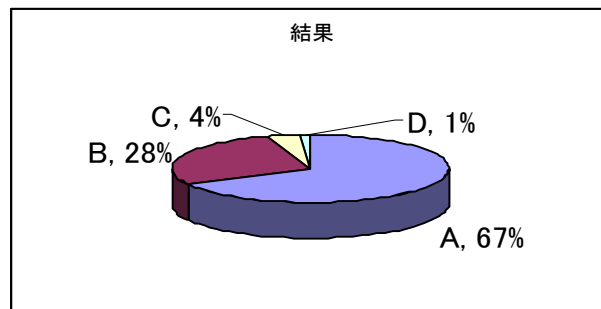
学校内部での評価を行うとともに、学校外部評価（保護者アンケート）に食に関する指導の項目を設け評価した。

保護者アンケート（抜粋）

・本校では、さっぽろ学校給食フードリサイクル事業に参加し、食の指導を続けています。お子さんは給食を楽しみにしていますか。

A(そう思う) B(どちらかというと思う)

C(どちらかというと思わない) D(そう思わない)



やさいアンケート

1、あなたは、やさいがすきですか。

- ①すき () ②ふつう () ③きらい ()

2、あなたは、きらいなやさいりょうりが給食にでたなら、どうしますか。

- ①がんばって食べる () ②すこしたべる () ③たべない ()

3、あなたは、おうちでもやさいをたべようとしていますか。

- ①している () ②すこししている () ③していない

4、あなたは、やさいが体にだいじだとおもいますか。

- ①おもう () ②すこしおもう () ③おもわない ()

5、あなたは、やさいをちょうりし、たくさんたべるほうほうをしっていますか。

- ①たくさん知っている () ②すこし知っている () ③知らない ()

6、5で、やさいをたくさんたべるちょうりのほうほうを、たくさん知っているひとにききます。

やさいをたくさんたべる、ちょうりのくふうをかいてみてください。

--

7、あなたは、まだ、たべたことのないやさいをたべてみたいとおもいますか。

- ①すごくおもう () ②すこしおもう () ③おもわない ()